

エネルギーフローリングの施工要領書(小根太入りハード温水マットを使用する場合)

当社のエネルギーフローリングをガス会社共通小根太入りハード温水マットに使用する場合、通常の無垢フローリング工事とは施工要領が異なります。永年に渡って快適にご利用頂く為、この施工要領書に従って正しく施工して下さい。

■施工前の注意点

床下に湿気がこもらないように必要な換気を取ります。

12mm以上の耐水合板(JAS認定:F☆☆☆☆対応品)で捨貼りを行い、小根太入りハード温水マットがフローリング施工前の状態で十分な強度を持つように下地を施工します。床下に湿気を感じる場合は、根太と捨貼り合板の間に0.1mm厚以上の防湿シートを敷き込み床下からの湿気を防ぎます。【図A】

壁際には相応のクリアランスを設け、巾木等で隠します。【図B】

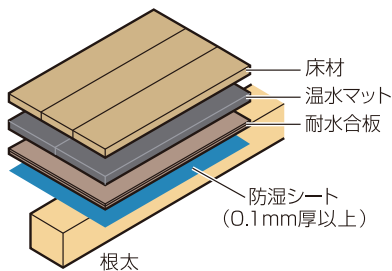
天然無垢の材は1枚毎に色合いが異なります。貼り始める前に仮並べをして色合いのバランスを取ります。また、その際に必ずフローリング材に瑕疵がないかを確認します。【図C】

施工を始める前に汚れ・埃などをきれいに除去した後、下地が完全に乾燥していることを確認した上で施工を始めます。

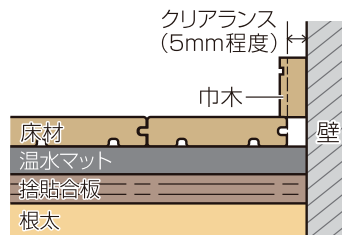
※直貼対応品の注意点

カルブが貼られた直貼対応品の場合、捨貼合板がないため必ずセルフレベルを用い不陸が出ないように(特に壁に近い周辺部)に下地調整を行って下さい。ただし、石膏系のセルフレベルは接着不良の原因となりますので使用は出来ません。なお、セルフレベルの含水率が10%以下になるまで養生します。施工後、夏場は3週間以上・冬場は4週間以上が目安です。

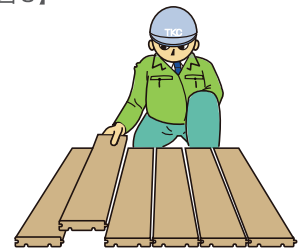
【図A】



【図B】



【図C】



■施工時の注意点

施工は糊釘併用で行います。当社の床暖用フローリングの長さは小根太のピッチ(303mm間隔)に適合しております。必ずフローリング短辺部の接合箇所は小根太中央にくるように施工します。【図3】

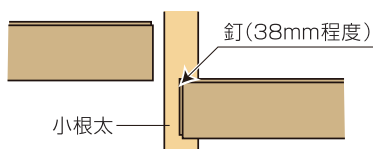
釘は38mm以上のフローリング用スクリュー釘、又はフローリータッカー用ステーブルを使用し、雄実部分から小根太に固定します。なお、マット内部のパイプを傷つける恐れがありますので小根太以外の温水マットには釘を使用しません。【図4】

接着剤はウレタン樹脂系(コニシ:KU928同等)を使用します。接着剤は温水マットの小根太部分と小根太の延長部用分及びダミー合板部分にのみ使用し、小根太部分以外の温水マット上には使用しません。また、フローリングの実部分にも接着剤は使用しません。【図5】

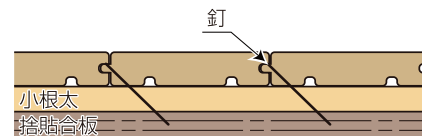
実を強く打ち込まず、フローリング間に名刺1~2枚程度のクリアランスを設けて施工します。強く打ち込み過ぎるとフローリングが湿気などにより膨張した際に突き上げの原因となります。【図6】

なお、同施工のスペーサーとしてPPバンドなどを使用することも出来ます。

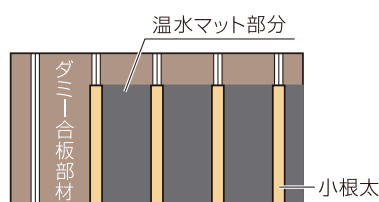
【図3】



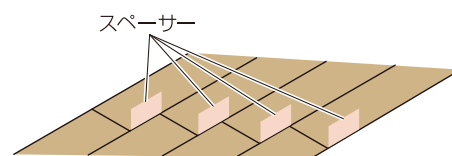
【図4】



【図5】



【図6】



※この“スペーサー”は梱包されておりません。



エナジーフローリングの施工要領書(小根太入りハード温水マットを使用する場合)

■施工後の注意点

施工後は接着剤を落ち着かせるのに1週間程度の養生期間を取ります。

施工後の清掃は乾いたモップやよく絞った雑巾を使用し、どうしても取れない汚れは部分的に中性洗剤を使用します。木質フローリングは水分を嫌いますので、フローリングにこぼした水分は放置せず、すぐに拭取るようにします。

木質フローリングを無塗装のまま使用することは美観上・耐久性の面から商品劣化を早めます。フローリングが無塗装で納品される場合でもお引渡し前に必ず塗装を行って下さい。また、無塗装で納品される無垢フローリングに直接メンテナンス用の水性樹脂ワックスを塗布すると反り・暴れや白濁の原因となりますので水性樹脂ワックスを直接使用することはお止め下さい。

養生シートは必ず通気性のあるものをご使用下さい。通気性がないブルーシートなどを使用すると施工後に湿気がこもり、フローリングの反り、暴れなどの原因となります。また、養生シートは壁面から15cm程度立ち上げ、その上から養生板を壁面から離して敷き養生テープで養生シートと養生板を固定して下さい。塗料の剥がれや変色の原因となりますのでフローリングに直接養生テープを貼る事は出来ませんのでご注意下さい。

■メンテナンスについて

フローリングのメンテナンス方法は使用されている塗料によって異なります。事前に塗布されている塗料の種類を確認し、引き渡し後に正しくメンテナンスが施されるようにお施主様にご説明下さい。

○ウレタン系塗料の場合

UVやウレタン系塗料で仕上げられたフローリングのメンテナンスは、定期的に水性樹脂ワックスを使用して行います。一般的に床材用水性樹脂ワックスはホームセンターなどで入手出来ますが、当社ではリンレイ社の木質床材専用樹脂ワックス“ハイテックフローリングコート”を推奨します。また、同ワックスにはつやの出る通常品の他、“つや消し40”と“つや消し20”があります。フローリングの質感に合わせてお選び下さい。

○オイル系塗料の場合

自然オイル系塗料(オスモカラー・蜜蝋ワックスなど)で仕上げられたフローリングのメンテナンスは最初に塗布されたオイルメーカーの専用メンテナンスオイルを上塗りして行います。それらのメンテナンスオイルは一般的にホームセンターなどでは入手が困難ですので、該当塗料メーカーのホームページなどを通じて購入して下さい。なお、同メンテナンス要領の詳細に関して各塗料メーカーに直接お問い合わせ願います。

